

令和7年度事業報告（案）

きずなこども園

1. 重点課題に対する取り組みについて

(1) 子ども主体保育の推進

ア. 外部環境

保育所の保育は、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を養うために、「子ども主体」「自己発揮できる環境を」「発達過程に応じて」等、保育の方法が保育指針に示されています。本園も令和6年度より保育士主導型の一斉保育からこども主体の保育へ転換しているところです。

イ. 重点課題に対する取り組み

- (ア) 子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子ども主体の思いや願いを受け止め適切に援助していく保育者の力を高めるために、保育士の声かけや対応について、自己の振り返りをもとに研修を進めました。
- (イ) 一人ひとりの子どもが十分に自己発揮できる環境を整えるために、おひさまこども園の見学や体験保育を実施し、保育環境について学びをすすめることができました。
- (ウ) 子ども集団における活動を効果あるものにするように、異年齢児の関わりを多く取り入れ、担任が入れ替わったり、子ども達で異年齢集団をつくり好きな活動を選んだりするなど、職員や子ども同士の多くの関わりを持つことで活動が広がり、よりたくさんの目線で子どもたちを知ることができました。

(2) マネジメント体制の構築

ア. 外部環境

園の保育の質を支えているのは、園全体の組織力の強さも関係します。一人ひとりの専門性の向上が図られるよう努めるとともに、園全体の組織力の向上のためのマネジメント体制を構築していく必要があります。

イ. 重点課題に対する取り組み

- (ア) 各保育室にリーダー保育士を複数名おき、定期的にリーダー会を実施することで、園内で起こる問題を自分事としてとらえ、園全体の改善案やリーダーとして行動の必要性を言葉で伝えながら、リーダーの意識改革に努めました。
- (イ) 園の理念や保育目標を明確化し、理念・目標に向かい保育を進めるよう、園内研修の充実を図りました。（おひさまこども園の職員が講師を務める園内研修も2度実施しました。）

(3) コロナ後の保育内容の深まりと地域とのさらなる連携を進める

ア. 外部環境

5類になった新型コロナウイルス感染症の防止を踏まえた生活様式になり、保育環境も通常に戻りつつあります。地域での活動もコロナ以前に戻し地域との交流を深めた上で、子どもたちの体験の機会を大事にしました。

イ. 重点課題に対する取り組み

- (ア) 年長児が架け橋や昭和クラブのデイサービスを訪問し、お年寄りとの交流を図るとともに、高麗町の文化祭にも参加して歌や踊りを披露することで、きずなこども園について子ども

の様子を発信し、地域の方にも喜んでいただきました。

(イ) コロナ以降慈愛の郷との交流はできなかったのですが、本園からの働きかけにより、敬老会には招待され、大きい組が舞台上で歌や踊りを披露しお年寄りに喜んでいただきました。クリスマスも招待されたのですがインフルエンザの感染拡大のため訪問できず、次年度以降の交流を広げていければと思っています。

2. 事業所の取り組み

(1) 年齢別在籍児童数

(年平均人数) 定員 60 名

年齢 性別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
男児	3.5	9	6.1	4	6.1	4	32.7
女児	1.4	3	5	6	6	11	32.4
計	4.9	12	11.1	10	12.1	15	65.1
	(8.8)	(12)	(11.8)	(14)	(14.5)	(15)	(76.1)
割合	7.5%	18.4%	17.1%	15.4%	18.6%	23.0%	100%

() は前年度実績

※令和 7 年度より定員の 10%超過までしか認められず、やむを得なく入所の制限をいたしました。

(0 歳児の月別在籍数)

月 性別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
男児	1	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	42
女児	0	0	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	17
計	1	1	4	5	6	6	6	6	6	6	6	6	59
	(7)	(8)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(105)

() は前年度実績

(年間延べ人数)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
R6 年度	105	144	141	168	174	180	912
R7 年度	59	144	134	120	145	180	782
前年比	▲46	+0	▲7	▲48	▲29	+0	▲130
	56.2%	100.0%	95.0%	71.4%	83.3%	100.0%	85.7%

(2) 保育事業

	保育計画	実 践	反省・課題
0 歳児	・家庭との連携をとりながら、保育士との個別的なふれあいに配慮し、依存的要求を満たし情緒の安定を図る。 ・子どもの欲求を受け入れながら身近なものへの関心や遊びを広げていく。	・一人ひとりの生活リズムと発達に合わせた生活ができるように努めた。 ・子どもの発達や個性に合わせた空間づくりを工夫して、のびのびと遊べるように、安全な環境づくりをした。 ・保護者との連絡や相談を密にして、健康面や子育ての悩みに寄り添うようにした。	・子どもの成長に合わせて室内の環境を変化させることで、個々に合った遊びや生活ができ、落ち着いて過ごせた。 ・保護者との信頼関係作りを丁寧に行い、子育てに寄り添うことができた。
1 歳児	・保育士との信頼関係の中で自分の思いを言葉や行動で表現し、安心して生活しながら友達との関わりへと広げる。 ・五感を使って探索活動をして、周囲のいろいろなものに興味を持ち、視野を広げる。	・興味や関心を引き出すような言葉かけ、環境づくりを心掛けた。(玩具の選び方、補充等) ・戸外遊びや散歩を通して自然に親しむ機会を多く取り入れた。	・0歳児と合同で活動することにより、異年齢との関わりができ、互いの刺激となり成長を感じた。 ・発達に合った玩具を揃え、十分に遊びこむ姿が見られた。
2 歳児	・自分でやりたい気持ちを大切に、様々なことに挑戦し、友達と関わったり、体を動かしたりする楽しさを味わう。 ・色々な経験を通して言語活動や表現力を豊かにする。	・基本的な生活習慣が身につけられるように、適切な援助を行い子ども達が意欲的に生活できるようにした。 ・子どもの興味を引き出し、意欲的に活動できるような環境づくり、保育計画を行った。	・個人差に配慮して、無理のない目標を設定し、楽しみながら生活習慣が身についていた。 ・様々な体験活動を取り入れ、子どもたちの好奇心や探究心を育てた。 ・保護者の気持ちに寄り添い、日頃からの連携を大切にしていた。
3 歳児	・身の回りのことに興味を持ち、自分でしてみようとする意欲を育て、基本的な生活習慣を身に付けていく。 ・言葉の獲得を通して友達との関わりを深め、ごっこ遊びや、外遊びを十分にし、体を動かす楽しさを味わう。	・支援が必要な子どもについて園全体でサポートした。 ・運動遊びやごっこ遊びを通して、友だちとのかかわりを多く持てるようにした。 ・ごっこ遊びの中から子どもたちの声を大事にし、次の活動へつながるように環境を工夫した。	・発達が気になる子どもについて、職員間で情報を共有し、家庭や療育機関とも連携して、対応した。 ・子どもたちの主体性を大切にしたい保育を心掛け、興味を引き出していた。
4 歳児	・友達や異年齢児、保育者と遊ぶ中でコミュニケーションを重ね、様々な状況の中で自分の気持ちを伝えられるようにしていく。 ・様々な自然物、自然現象を発見し、興味を持つ。	・個々の気持ちを引き出し、表現できるように一人ひとりと丁寧に関わった。 ・植物の栽培、収穫など体験活動を多く取り入れた。また生き物を飼育することを楽しんでいた。	・年齢や発達に沿った活動ができるように、様々な体験ができるよう楽しめる保育を計画した。 ・生き物について自分たちで調べたり観察を続けたりするなど、興味関心の高さが見られた。
5 歳児	・年長になったことを喜び自覚すると共に、就学への期待を持つ。 ・異年齢や様々な人と関わりの中で、思いやりの心を持ち、協調性や社会性を身に付ける。 ・様々な体験活動を通して、主体的に行動し、達成感や充実感を味わう。	・子どもの興味関心を引き出し、自分たちで考え工夫して遊べるように、廃材等をいつでも使える環境づくりをした。 ・話し合い活動を取り入れ、子どもたちの意見を取り上げるようにした。	・絵本や掲示等で自然と関心が向くような環境づくりをした。子どもの言葉を拾い上げ、保育に反映できるようにすることで、遊びが展開していった。 ・遊びについての話し合いや自分の気持ちを表現する機会を多く取り入れ、こどもたちの主体性を育てた。

(3) 給食事業

主な計画	実 践	反省・課題
・献立の立案 ・子どもの栄養状態の把握 ・給食検討会 ・食事調査の実施 ・食育の年間計画の立案 ・アレルギー除去食の提供 ・園内の畑やプランターで野菜の栽培	・郷土料理や行事食、旬の食材を組み入れ、食の伝統文化や四季の味を知らせる。 ・食事の摂取状況や活動状況、身長や体重などの発育状況の把握を行った。 ・毎月1回保育士と意見を出し合い、給食に反映させた。子どもたちの意見も取り入れた。 ・家庭での食生活の調査をし、家庭と園との連携を図ることにより、その後の献立、栄養指導につなげた。 ・食事のマナーを知らせると共に、楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べる喜びを味わう。 ・保護者との連携をとり、アレルギー除去食の提供を行い、調理の際には事故のないよう十分配慮し、保育士と給食室との連携も密にとった。 ・園内に畑を整備し、野菜苗植えから栽培し、生長観察、収穫を行う。	・地域の産物を活かした料理や旬の食材を知り、郷土料理や季節感を味わうことができた。 ・子どもの食事の状況を把握することにより、献立や調理法の改善に生かした。給食担当職員と園児の交流を行い、子どもの実態を知り、親しみを持つことができた。 ・個々の発育曲線グラフを作成し、発育の状況を把握し、保護者にも伝え喜ばれた。 ・アレルギーの対応は保護者や医療機関との綿密な連携が必要である。また、誤配食を防止するため、トレーの色や表示、職員同士の確認を徹底した。 ・大きい組の園児は、保育士と献立を確認しながら、献立ボードでの三つの栄養素の確認をし、栄養に興味をもつことができた。 ・身近な野菜を栽培し、収穫することで食材や調理にも興味を持ち、感謝して食べることにもつながった。

(4) 地域交流事業

事業名	実 践	反省・課題
・世代間交流事業	・「慈愛の郷 敬老会」に参加 ・「架け橋」「昭和クラブ」のデ イサービスとの交流	・慈愛の郷の敬老会にコロナ後初めて参加し、3・4・5歳児が舞台発表を行った。久しぶりの交流に慈愛の郷のお年寄りもとても喜んで下さり、次年度への交流へとつながる触れ合いとなった。 ・デイサービスでの交流は実際に触れ合ったり、踊りを見ていただいたりして、楽しい交流時間をもつことができた。
・異年齢児交流事業	・卒園児との交流（夏 1年生 冬 4年生）	夏に小学1年生・4年生を対象に同窓会を行った。在園児と一緒に遊んだり、一緒に食事をしたりする時間もつくり、とても良い交流の時間となった。
・保育実習 ・職場体験学習 ・ボランティア ・福祉・保育体験学習	・鹿児島中央看護専門学校 ・鹿児島女子短期大学 ・キャリアデザイン専門学校 ・甲南中学校 ・天保山中学校	・実習生の指導を通して、職員の指導能力や専門職としての自覚が向上すると思われた。 ・多くの人とかわることで、子ども達にも刺激があり、楽しく活動ができた。 ・中学生の保育士体験は、将来保育士を目指す子供たちへのいい影響になったと思われる。

(5) 幼児保育相談事業 臨床心理士 大坪恵美子先生 (年4回)

内 容	反省・課題
・ 個々の行動観察と気になる子どもへの具体的な対応について ・ 保育内容や方法についての指導 ・ 担任保育士とのカンファレンス ・ 就学時相談について ・ 療育等への連携について ・ 保護者面談 (2回)	・ 子どもの気になる行動について、事前に連絡して、相談することでより詳しく助言してもらうことができた。また、日頃の姿を心理士と一緒に観察することで、考えられる原因や、違う面から見た理解もできた。 ・ 事前に相談していない子どもについても、観察時に気になることを具体的に担任に伝え、対応策を教えてください。 ・ 専門機関への連携や、具体的な進め方もアドバイスしてもらい担任が保護者へ保健センター受診を勧めるきっかけづくりをしていただけた。 ・ 対象児が多く、限られた時間内で相談することが難しかったが、相談を重ねるごとに、保育士の知識や専門性は高まったと思われる。 ・ 子育てに不安や悩みを強く持つ保護者に対して、直接アドバイスしてもらう機会を設け、安心してもらう事ができた。また、職員が面談する際に事前に相談し、適切な助言を頂けた。

(6) 実習受け入れ

学校名	実習期間	日数	人数	目的
鹿児島医療技術専門学校	R7 5/12～5/16	5 日間	5	小児看護学実習
甲南中学校	R7 5/21～5/23	3 日間	6	職場体験
鹿児島中央看護専門学校	R7 6/16～9/20	各 2 日間 (合計 22 日間)	23	保育実習
鹿児島女子短期大学	R7 8/18～8/29	11 日間	2	保育実習
	R8 2/16～2/28	11 日間	1	
キャリアデザイン専門学校	R7 12/1～12/13	11 日間	1	保育実習
天保山中学校	R8 2/25～2/27	3 日間	4	保育実習

3. 相談・苦情

計画 (対応策)	内容	対応・反省
・ 苦情解決責任者、苦情受付担当者、および第三者委員を設置し、苦情解決の体制を整えた。又、苦情申し出窓口の設置について、年度初めに保護者に周知する。 ・ 苦情の申し出でなくとも、園の運営に関しての要望や苦情を受け付け、改善すべきことは改善し、キッズンリー等を通して公表し、園運営に生かしていくよう努める。 ・ 日頃の保護者とのコミュニケーションを大切に、相互理解を深める。	・ 園庭と玄関から園舎に繋がる通路との境目の植木から出ている枝で、女児が足にケガをした。気を付けて欲しい。	・ 保護者に謝罪するとともに、植木について対応する。それまでも枝が出ていて危険性も感じていたので、慈愛の郷にも相談し、危ない箇所の植木を抜き、子ども達が安全に遊べるように対応した。 ・ 園内の安全点検、設備点検を定期的に実施し、ケガにつながりそうなところは改善する。

4. 防災訓練

日時	種別	参加人員		内容
4月22日（火） 18:20	火災 （延長保育時）	園児	5	隣接するファミリーマートで火災 避難経路確認、消火訓練
5月30日（金） 10:10	地震	園児	56	防災頭巾、避難、消火訓練
		職員	16	
6月26日（木） 10:05	火災（消防署 立合い）	園児	60	避難、消火訓練
		職員	19	
7月17日（木） 14:50	火災	園児	59	避難、消火訓練
		職員	15	
8月19日（火） 16:10	台風・水害	園児	62	避難、消火訓練
		職員	16	
9月2日（火） 7:40	地震 （早朝保育）	園児	12	避難、消火訓練 防災ずきん
		職員	3	
10月23日（木） 10:00	火災	園児	55	避難、消火訓練
		職員	18	
11月28日（金） 15:25	地震・津波	園児	49	避難、消火訓練、防災ずきん
		職員	16	
12月29日（月） 10:00	火災	園児	16	避難、消火訓練
		職員	8	
1月27日（火） 10:15	地震	園児	57	避難、消火訓練、防災ずきん
		職員	16	
2月4日（水） 15:30	火災（消防署 立ち合い）	園児	58	避難 消火訓練
		職員	13	
3月13日（金） 7:30	地震 （早朝）	園児	4	避難 消火訓練 防災ずきん
		職員	2	

5、会議及び研修

(1) 研修計画（園内）

主な計画	実 践	反省・課題
◎園内研修	（４月）職員研修・ラプラス （６月）職員研修・園内 （９月）職員研修・園内 （３月）職員研修・園内	・ラプラス谷山にて、市内９ヶ園の「子ども主体の保育」を実施している園主催の子研修会に正規・常勤職員で参加。 ・おひさまこども園の子ども主体の保育についておひさまの職員から実践事例を紹介から学びを受け、その後グループワークを実施する。 ・おひさま職員が講師となり、フォトカンファレンス、保育ウェブについて体験型研修を実施する。 ・不適切防止についての研修 ・令和８年度についての話し合い 理念についての確認、令和８年度は特に「チーム保育」「子どものための環境」について力を入れていく。各チームでの対話の重要性について意識できるようにする。

(2) 会議

会議名	回 数	延べ参加人数	会議内容	参加職種
職員会議	12 回	120	翌月の行事・研修・共通理解	園長・主任・保育士・栄養士・事務
危機管理会議	12 回	72	毎月の事故状況・発生防止策	園長・主任・保育士
給食検討会	12 回	72	喫食状況・献立、食育検討	園長・主任・栄養士・保育士
担当者会議	18 回	80	行事等の準備・計画・実施	各担当者
管理者会議	4 回	12	理念の確認・園内状況の把握 個人面談について等	園長・主任・フリーリーダー
リーダー会議	2 回	12	各チームの報告・相談 主任から	主任・チームリーダー
クラス会議	48 回	480	1 週間の保育の振り返り	保育士・主任
ケース会議	4 回	40	臨床心理士来園時に、気になる子どもについて	保育士・主任

6. 年間行事報告

毎月の行事	実 践	反省・課題
誕生会	・月により行事と抱き合わせてそれぞれの担当がリズム室と小さい組と大きい組に分かれて実施した。（毎月保育士２名が担当）	・大人数の密をさけるため、未満児と以上児に分かれ、実施する。集団が苦手な子は保育士がそばにいて個別に対応し無理なく進められた。
避難訓練	・月により地震や火事、不審者など災害の種類を変え、実施時間も様々な時間帯に設定し、また時間を職員にも伝えず実施し対応力を訓練する機会を多く持つようにした。	・消防署立ち合いの避難訓練後は消防署への見学にもつながり、子どもたちの印象にも強く残ったようだ。 ・鹿児島市の安心安全課による不審者対応の指導も受けることができた。
設備点検	・設備点検マニュアルに従い、担当保育士が丁寧に点検を行った。	

		・修理が必要な部分はすぐに業者に連絡し、改善を図った。昨年度、修繕や買い替えを行っていたため、ほとんど修繕箇所はなかった。
--	--	---

月	主な計画	実 践	反省・課題
4月	入園式	・4月26日に入園式を行い、新入園児の入園を祝った。	・前年度の途中入所児を含めての入園式になるため、賑やかに開催されたが必要性を考えて今年度が最後となる。
5月	慈愛の郷との合同訓練 春の遠足	・慈愛の郷、全館を通じての避難訓練に園長・事務が参加し、人員の確認や消火訓練を実施した。 ・大きい組はバスに乗ってメルヘン館へ、小さい組は近場の公園に徒歩で行って楽しんだ。	・子どもの午睡時だったため、職員のみでの参加となる。 ・春のバス遠足は子どもたちにとってとても楽しかったようで、メルヘン館でも興味津々に活動していた。
6月	健康診断 歯科検診 夏祭り	・予定通り実施できた。 ・土曜日の午前保護者と一緒に参加し、楽しい行事となった。	・密を避け、風通しの良いところで実施した。 ・午前中室内を開放し、いろいろなゲームや遊びを楽しんだ。
7月	プール遊び開始 1年生同窓会	・大きい組、小さい組に分かれ、保育活動の中にプール遊びを取り入れた。(7月～8月)	・監視する人を必ず一人置き、監視体制を整えた。 ・3月に卒園した卒園児15名全員が参加し、在園児との交流を楽しんだ。
8月	お泊り保育	・科学館見学、花火あそびやおぼけ屋敷等、年長児のみ参加し、園に泊まる経験をする事ができた。	・園児15名参加、職員4名がついて、土曜日の午後3時から日曜日の午前9時まで預かった。様々な体験ができたが、健康・安全の管理が一番の課題である。
9月	十五夜	・十五夜の行事についてわかりやすく伝えた後、すもうや団子づくりを実施し、日本の文化に触れることができた。	・十五夜の意味を各クラスで伝えた後、怪我がないようにすもう等を楽しんだ。
10月	運動会 交通安全教室	・甲南中学校の体育館を借りて、運動会を実施することができた。 ・鹿児島市安心安全課が来園し、交通ルールについて学ぶことができた。	・小さい組と大きい組の2部制で実施したが、入れ替わりもスムーズで、保護者とともに楽しく参加できた。 ・交通ルールについて、わかりやすく学ぶことができた。
11月	秋の遠足 荒田小校区文化祭 ハロウィンイベント	・01歳児は近場の公園、2歳児は電車遠足、345歳児はバスで動物園の遠足を楽しんだ。 ・年長児15名が文化祭に参加し、歌や踊りを舞台上で披露した。 ・保育園周辺の店舗、施設を子どもたちが仮装して回り、地域との交流を図るイベントを実施した。	・それぞれのクラスの職員が、目的にあった交通手段や場所を決め、安全に気を付けながら、子どもたちにとっては楽しい遠足を体験できた。 ・保護者のご協力のもと、子ども達が舞台上で楽しく参加することができた。 ・毎年恒例となりつつあり、訪問する店舗、施設も喜んでお菓子を準備して下さり、子ども達にとって楽しい交流を実施できた。
12月	発表会 クリスマス会 4年生同窓会	・クラスごとに保護者の入れ替えをしながら、歌やダンス、劇など、子どもたちの発達にあった演目を披露した。 ・卒園児である小学4年生15名が、午前中の保育と給食まで在園児とともに過ごし、交流を図ることができた。	・保護者の前で自信をもって発表する姿が印象的であった。当日だけではなく、作り上げる過程の子どもたちの活動や気持ちも大事にしていって。 ・インフルエンザ感染時期でぎりぎりのところで開催できたが、昨年度はインフルエンザの為に開催できなかったことも踏まえて、来年度より時期を変更することを検討する。

1月	七草	・春の七草の由来を話した上で、給食の七草がゆをいただく。	・七草の紹介や由来を伝えることで、子どもたちも興味をしめし、七草がゆを食べながら会話も広がっていた。
2月	節分の行事 消防署立ち合い避難訓練 入園説明会	・各クラスに応じて子ども同士で鬼になったり、職員が鬼に扮したりして、節分の行事を楽しんだ。 ・消防署立ち合いの元、避難訓練を実施することができた。 ・10組の親子の参加で、ゆったりと実施することができた。	・年齢に応じた行事の楽しみ方をそれぞれ工夫できていた。 ・消防車に子どもたちがとても興味を示したため、その後の消防署見学につなげることができた。 ・園での重要事項について説明し、また、個別に担任と面談を実施することができた。
3月	卒園児遠足 卒園式	・年長児が市電を利用してラプラスと博物館にひく日を別日でもうけ、お別れ遠足を楽しんだ。 ・職員の準備や子どもたちの作品で会場を彩り、心をこめて子どもたちの卒園を祝った。保護者の方も園や担任に感謝の気持ちを伝えて下さった。	・前もって連絡していたこともあり、会場についてもスタッフの方がスムーズ案内してくださり、子どもたちも安全に楽しめた。 ・自分たちが主役という自信に年長児一人ひとりの表情は輝いており、心のこもった卒園式を実施できた。 ・卒園式後もほとんど欠席なく3月30日まで全員で登園してきたことは、子ども達にとって必要な場所であることを再確認することができた。

7. 設備計画

月 日	工事名 ・ 品名	内 容
R8. 3月10日	園庭ゴムチップ舗装新設工事	こども園移行の為、園庭面積確保

8. 職員管理

- (1) 入職者 正規職員 1名（保育士 1名）R7年4月～
 正規職員 1名（栄養士 1名）R8年2月～

- (2) 退職者 正規職員 1名（栄養士 1名）R8年3月

- (3) 産休・育休職員 正規職員 1名（保育士1名）R7年3月～ R8年4月23日復帰
 常勤職員 1名（保育士1名）R6年12月～ R8年4月1日復帰
 非常勤職員 1名（保育士 1名）R7年12月～

- (4) 職員体制（令和8年3月31日現在）

職種区分	人数	正規職員	常勤職員	非常勤職員	
園 長	1		1		
主任保育士	1	1			
保育士	17	11	3	3	うち3名育児休暇中
栄養士	2	2			
調理員	4		1	3	
事務員	2	2			
施設係	1			1	
計	28	16	5	7	

